

◆◆◆新しい台風情報（台風情報の充実と新しい表示）

気象庁では、平成16年度の国土交通省プログラム評価「台風・豪雨等に関する気象情報の充実」に掲げられた短期的目標への対応の一環として、平成19年4月18日以降に発生する台風に対して台風情報の内容を充実させるとともに、台風進路予報の図表示をより分かりやすくなるように変更しました。

内容等の変更は次のとおりです。

- 3時間刻みの台風の予報
従前の12、24時間先の台風の位置・強度の予報に加え、24時間先までの3時間刻みの予報を発表する（3、6、9、15、18、21時間予報が加わる）。これにより、各地域で警戒が必要となる時間帯がより詳しく分かるようになる。
- 台風の強さの目安としての最大瞬間風速の追加
台風に伴う最大風速（10分間平均）に加え、最大瞬間風速も発表する。最大瞬間風速は災害との関連が強いので、より災害に関連する情報を発表することができるようになる。
- 台風への発達が予想される熱帯低気圧に関する情報の充実
熱帯低気圧が発達して24時間以内に台風になると予想した場合、実況のほか24時間予報を発表する。この情報で、台風になる前からの熱帯低気圧の影響をいち早く伝えられ、防災等の準備を促すことができる。
- 温帯低気圧に変わりつつある台風に関する情報の充実
台風が温帯低気圧に変わる過程で発生する暴風に警戒すべき状況が続く場合、台風情報を継続して発表する。これにより、台風に匹敵する防災対策が必要であることを効果的に伝えることができる。
- 暴風域に入る確率の分布の新設と予報時間の延長
全国を約370に分けた区域ごとの暴風域に入る確率値の発表に加え、確率値の分布図を新たに発表し、暴風域に関する切迫度を視覚的に伝えることができる。また、予報時間を48時間から72時間まで延ばす。
- 台風進路予報図の表示方法の変更
(1) 予報時刻ごとの暴風警戒域の円に代えて、予報期間の暴風警戒域全体を囲む線を表示
(2) 予報円の中心の点やそれを結ぶ線を表示
これにより、暴風警戒域の円の重なりがなくなり見やすくなると同時に、台風の進む方向が分かりやすくなる。



2007年3月までの進路予報図



2007年4月からの進路予報図